

第5回三郷市まちづくり委員会参考資料一覧（R1.11/28）

資料No.	資料名	ページ
参考資料①	SDGs 目標・ターゲット・指標一覧（仮訳）	1～17
参考資料②	持続可能な開発目標の相互関係	19～20
参考資料③	計画書レイアウトイメージ（SDG s アイコン）	21～22
参考資料④	第4次三郷市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト	23～26
参考資料⑤	総合計画と総合戦略の関係（イメージ）	27
参考資料⑥	総合計画 近隣市事例一覧	29～30
参考資料⑦	まちづくり委員会工程表	31



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

ターゲット	指標(仮訳)
1.1 2030年までに、現在1日1.25ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。	1.1.1 国際的な貧困ラインを下回って生活している人口の割合(性別、年齢、雇用形態、地理的ロケーション(都市/地方)別)
1.2 2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。	1.2.1 各国の貧困ラインを下回って生活している人口の割合(性別、年齢別) 1.2.2 各国の定義に基づき、あらゆる次元で貧困ラインを下回って生活している男性、女性及び子供の割合(全年齢)
1.3 各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。	1.3.1 社会保障制度によって保護されている人口の割合(性別、子供、失業者、年配者、障害者、妊婦、新生児、労務災害被害者、貧困層、脆弱層別)
1.4 2030年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、全ての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。	1.4.1 基礎的サービスにアクセスできる世帯に住んでいる人口の割合 1.4.2 (a)土地に対し、法律上認められた書類により、安全な所有権を有している全成人の割合(性別、保有の種類別) (b)土地の権利が安全であると認識している全成人の割合(性別、保有の種類別)
1.5 2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性(レジリエンス)を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。	1.5.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数(指標11.5.1及び13.1.1と同一指標) 1.5.2 グローバルGDPに関する災害による直接的経済損失 1.5.3 仙台防災枠組み2015-2030に沿った国家レベルの防災戦略を採択し実行している国の数(指標11.b.1及び13.1.2と同一指標) 1.5.4 国家防災戦略に沿った地方レベルの防災戦略を採択し実行している地方政府の割合(指標11.b.2及び13.1.3と同一指標)
1.a あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切かつ予測可能な手段を講じるため、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。	1.a.1 政府によって貧困削減計画に直接割り当てられた国内で生み出された資源の割合 1.a.2 総政府支出額に占める、必要不可欠なサービス(教育、健康、及び社会的な保護)への政府支出総額の割合 1.a.3 貧困削減計画に直接割り当てられた助成金及び非譲渡債権の割合(GDP比)
1.b 貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するため、国、地域及び国際レベルで、貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。	1.b.1 女性、貧困層及び脆弱層グループに重点的に支援を行うセクターへの政府からの周期的な資本投資

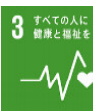


最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

ターゲット	指標（仮訳）
2.1 2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。	2.1.1 栄養不足蔓延率(PoU) 2.1.2 食料不安の経験尺度(FIES)に基づく、中程度又は重度な食料不安の蔓延度
2.2 5歳未満の子供の発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。	2.2.1 5歳未満の子供の発育阻害の蔓延度(WHO子ども成長基準で、年齢に対する身長が中央値から標準偏差-2未満) 2.2.2 5歳未満の子供の栄養不良の蔓延度(WHOの子ども成長基準で、身長に対する体重が、中央値から標準偏差+2超又は-2未満)(タイプ別(やせ及び肥満))
2.3 2030年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を増進させる。	2.3.1 農業/牧畜/林業企業規模の分類ごとの労働単位あたり生産額 2.3.2 小規模食料生産者の平均的な収入(性別、先住民・非先住民の別)
2.4 2030年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靱(レジリエント)な農業を実践する。	2.4.1 生産的で持続可能な農業の下に行われる農業地域の割合
2.5 2020年までに、国、地域及び国際レベルで適正に管理及び多様化された種子・植物バンクなども通じて、種子、栽培植物、飼育・家畜化された動物及びこれらの近縁野生種の遺伝的多様性を維持し、国際的合意に基づき、遺伝資源及びこれに関連する伝統的な知識へのアクセス及びその利用から生じる利益の公正かつ衡平な分配を促進する。	2.5.1 中期又は長期保存施設に保存されている食料及び農業のための植物及び動物の遺伝資源の数 2.5.2 絶滅の危機にある、絶滅の危機にはない、又は、不明というレベルごとに分類された在来種の割合
2.a 開発途上国、特に後発開発途上国における農業生産能力向上のために、国際協力の強化などを通じて、農村インフラ、農業研究・普及サービス、技術開発及び植物・家畜のジェーン・バンクへの投資の拡大を図る。	2.a.1 政府支出における農業指向指数 2.a.2 農業部門への公的支援の全体的な流れ(ODA及び他の公的支援の流れ)
2.b ドーハ開発ラウンドのマンデートに従い、全ての農産物輸出補助金及び同等の効果を持つ全ての輸出措置の同時撤廃などを通じて、世界の市場における貿易制限や歪みを是正及び防止する。	2.b.1 農業輸出補助金
2.c 食料価格の極端な変動に歯止めをかけるため、食料市場及びデリバティブ市場の適正な機能確保するための措置を講じ、食料備蓄などの市場情報への適時のアクセスを容易にする。	2.c.1 食料価格の変動指数(IFPA)



すべての人に
健康と福祉を

最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

ターゲット	指標（仮訳）
3.1 2030年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生10万人当たり70人未満に削減する。	3.1.1 妊産婦死亡率
	3.1.2 専門技能者の立ち会いの下での出産の割合
3.2 全ての国が新生児死亡率を少なくとも出生1,000件中12件以下まで減らし、5歳以下死亡率を少なくとも出生1,000件中25件以下まで減らすことを目指し、2030年までに、新生児及び5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。	3.2.1 5歳未満児死亡率
	3.2.2 新生児死亡率
3.3 2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。	3.3.1 非感染者1,000人当たりの新規HIV感染者数（性別、年齢及び主要層別）
	3.3.2 10万人当たりの結核感染者数
	3.3.3 1,000人当たりのマラリア感染者数
	3.3.4 10万人当たりのB型肝炎感染者数
	3.3.5 「顧みられない熱帯病」(NTDs) に対して介入を必要としている人々の数
3.4 2030年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を促進する。	3.4.1 心血管疾患、癌、糖尿病、又は慢性の呼吸器系疾患の死亡率
	3.4.2 自殺率
3.5 薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。	3.5.1 物質使用障害に対する治療介入（薬理的、心理社会的、リハビリ及びアフターケア・サービス）の適用範囲
	3.5.2 1年間（暦年）の純アルコール量における、（15歳以上の）1人当たりのアルコール消費量に対しての各国の状況に応じ定義されたアルコールの有害な使用（ <i>ℓ</i> ）
3.6 2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。	3.6.1 道路交通事故による死亡率
3.7 2030年までに、家族計画、情報・教育及び性と生殖に関する健康の国家戦略・計画への組み入れを含む、性と生殖に関する保健サービスを全ての人々が利用できるようにする。	3.7.1 近代的手法によって、家族計画についての自らの要望が満たされている出産可能年齢（15～49歳）にある女性の割合
	3.7.2 女性1,000人当たりの青年期（10～14歳；15～19歳）の出生率
3.8 全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。	3.8.1 必要不可欠な保健サービスのカバー率（一般及び最も不利な立場の人々についての、生殖、妊婦、新生児及び子供の健康、感染性疾患、非感染性疾患、サービス能力とアクセスを含む追跡可能な介入を基にした必要不可欠なサービスの平均的なカバー率と定義）
	3.8.2 家計の支出又は所得に占める健康関連支出が大きい人口の割合
3.9 2030年までに、有害化学物質、並びに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。	3.9.1 家庭内及び外部の大気汚染による死亡率
	3.9.2 安全ではない水、安全ではない公衆衛生及び衛生知識不足（安全ではないWASH（基本的な水と衛生）にさらされていること）による死亡率
	3.9.3 意図的ではない汚染による死亡率
3.a 全ての国々において、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約の実施を適宜強化する。	3.a.1 15歳以上の現在の喫煙率（年齢調整されたもの）
3.b 主に開発途上国に影響を及ぼす感染性及び非感染性疾患のワクチン及び医薬品の研究開発を支援する。また、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS協定）及び公衆の健康に関するドーハ宣言に従い、安価な必須医薬品及びワクチンへのアクセスを提供する。同宣言は公衆衛生保護及び、特に全ての人々への医薬品のアクセス提供にかかわる「知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS協定）」の柔軟性に関する規定を最大限に行使する開発途上国の権利を確約したものである。	3.b.1 各国の国家計画に含まれる全てのワクチンによってカバーされている対象人口の割合
	3.b.2 薬学研究や基礎的保健部門への純ODAの合計値
3.c 開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国において保健財政及び保健人材の採用、能力開発・訓練及び定着を大幅に拡大させる。	3.b.3 持続可能な水準で、関連必須医薬品コアセットが入手可能かつその価格が手頃である保健施設の割合
	3.c.1 医療従事者の密度と分布
3.d 全ての国々、特に開発途上国の国家・世界規模な健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力を強化する。	3.d.1 国際保健規則（IHR）キャパシティと健康危機への備え



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

ターゲット	指標(仮訳)
4.1 2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。	4.1.1 (i)読解力、(ii)算数について、最低限の習熟度に達している次の子供や若者の割合(性別ごと) (a)2～3学年時、(b)小学校修了時、(c)中学校修了時
4.2 2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。	4.2.1 健康、学習及び心理社会的な幸福について、順調に発育している5歳未満の子供の割合(性別ごと) 4.2.2 (小学校に入学する年齢より1年前の時点で)体系的な学習に参加している者の割合(性別ごと)
4.3 2030年までに、全ての人が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。	4.3.1 過去12か月に学校教育や学校教育以外の教育に参加している若者又は成人の割合(性別ごと)
4.4 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。	4.4.1 ICTスキルを有する若者や成人の割合(スキルのタイプ別)
4.5 2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。	4.5.1 詳細集計可能な、本リストに記載された全ての教育指数のための、パリティ指数(女性/男性、地方/都市、富の五分位数の底/トップ、またその他に、障害状況、先住民、紛争の影響を受けた者等の利用可能なデータ)
4.6 2030年までに、全ての若者及び大多数(男女ともに)の成人が、読み書き能力及基本的計算能力を身に付けられるようにする。	4.6.1 実用的な(a)読み書き能力、(b)基本的計算能力において、少なくとも決まったレベルを達成した所定の年齢層の人口割合(性別ごと)
4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。	4.7.1 ジェンダー平等および人権を含む、(i)地球市民教育、及び(ii)持続可能な開発のための教育が、(a)各国の教育政策、(b)カリキュラム、(c)教師の教育、及び(d)児童・生徒・学生の達成度評価に関して、全ての教育段階において主流化されているレベル
4.a 子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、全ての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。	4.a.1 以下の設備等が利用可能な学校の割合 (a)電気、(b)教育を目的としたインターネット、(c)教育を目的としたコンピュータ、(d)障害を持っている学生のための適切な設備・教材、(e)基本的な飲料水、(f)男女別の基本的なトイレ、(g)基本的な手洗い施設(WASH指標の定義別)
4.b 2020年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、並びにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術(ICT)、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。	4.b.1 奨学金のためのODAフローの量(部門と研究タイプ別)
4.c 2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。	4.c.1 各国における適切なレベルでの教育を行うために、最低限度化された養成研修あるいは現職研修(例:教授法研修)を受けた(a)就学前教育、(b)初等教育、(c)前期中等教育、(d)後期中等教育に従事する教員の割合



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

ターゲット	指標(仮訳)
5.1 あらゆる場所における全ての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。	5.1.1 性別に基づく平等と差別撤廃を促進、実施及びモニターするための法律の枠組みが制定されているかどうか
5.2 人身売買や性的、その他の種類の搾取など、全ての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。	5.2.1 これまでにパートナーを得た15歳以上の女性や少女のうち、過去12か月以内に、現在、または以前の親密なパートナーから身体的、性的、精神的暴力を受けた者の割合(暴力の形態、年齢別) 5.2.2 過去12か月以内に、親密なパートナー以外の人から性的暴力を受けた15歳以上の女性や少女の割合(年齢、発生場所別)
5.3 未成年者の結婚、早期結婚、強制結婚及び女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃する。	5.3.1 15歳未満、18歳未満で結婚又はパートナーを得た20～24歳の女性の割合 5.3.2 女性性器切除を受けた15歳～49歳の少女や女性の割合(年齢別)
5.4 公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、並びに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。	5.4.1 無償の家事・ケア労働に費やす時間の割合(性別、年齢、場所別)
5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。	5.5.1 国会及び地方議会において女性が占める議席の割合 5.5.2 管理職に占める女性の割合
5.6 国際人口・開発会議(ICPD)の行動計画及び北京行動綱領、並びにこれらの検証会議の成果文書に従い、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスを確保する。	5.6.1 性的関係、避妊、リプロダクティブ・ヘルスケアについて、自分で意思決定を行うことのできる15歳～49歳の女性の割合 5.6.2 15歳以上の女性及び男性に対し、セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスケア、情報、教育を保障する法律や規定を有する国の数
5.a 女性に対し、経済的資源に対する同等の権利、並びに各国法に従い、オーナーシップ及び土地その他の財産、金融サービス、相続財産、天然資源に対するアクセスを与えるための改革に着手する。	5.a.1 (a)農地への所有権又は保障された権利を有する総農業人口の割合(性別ごと) (b)農地所有者又は権利者における女性の割合(所有条件別) 5.a.2 土地所有及び/又は管理に関する女性の平等な権利を保障している法的枠組(慣習法を含む)を有する国の割合
5.b 女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する。	5.b.1 携帯電話を所有する個人の割合(性別ごと)
5.c ジェンダー平等の促進、並びに全ての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。	5.c.1 ジェンダー平等及び女性のエンパワメントのための公的資金を監視、配分するシステムを有する国の割合



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

ターゲット	指標(仮訳)
6.1 2030年までに、全ての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ公平なアクセスを達成する。	6.1.1 安全に管理された飲料水サービスを利用する人口の割合
6.2 2030年までに、全ての人々の、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性及び女児、並びに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う。	6.2.1 (a)安全に管理された公衆衛生サービスを利用する人口の割合、(b)石けんや水のある手洗い場を利用する人口の割合
6.3 2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。	6.3.1 安全に処理された排水の割合 6.3.2 良好な水質を持つ水域の割合
6.4 2030年までに、全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。	6.4.1 水の利用効率の経時変化 6.4.2 水ストレスレベル:淡水資源量に占める淡水採取量の割合
6.5 2030年までに、国境を越えた適切な協力を含む、あらゆるレベルでの統合水資源管理を実施する。	6.5.1 統合水資源管理(IWRM)実施の度合い(0-100) 6.5.2 水資源協力のための運営協定がある越境流域の割合
6.6 2020年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。	6.6.1 水関連生態系範囲の経時変化
6.a 2030年までに、集水、海水淡水化、水の効率的利用、排水処理、リサイクル・再利用技術を含む開発途上国における水と衛生分野での活動と計画を対象とした国際協力と能力構築支援を拡大する。	6.a.1 政府調整支出計画の一部である上下水道関連のODAの総量
6.b 水と衛生に関わる分野の管理向上における地域コミュニティの参加を支援・強化する。	6.b.1 上下水道管理への地方コミュニティの参加のために制定し、運営されている政策及び手続のある地方公共団体の割合



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

ターゲット	指標(仮訳)
7.1 2030年までに、安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。	7.1.1 電気を受電可能な人口比率
	7.1.2 家屋の空気を汚さない燃料や技術に依存している人口比率
7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。	7.2.1 最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率
7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。	7.3.1 エネルギー強度(GDP当たりの一次エネルギー)
7.a 2030年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。	7.a.1 クリーンなエネルギー研究及び開発と、ハイブリッドシステムに含まれる再生可能エネルギー生成への支援に関する発展途上国に対する国際金融フロー
7.b 2030年までに、各々の支援プログラムに沿って開発途上国、特に後開発途上国及び小島嶼開発途上国、内陸開発途上国の全ての人々に現代的で持続可能なエネルギーサービスを供給できるよう、インフラ拡大と技術向上を行う。	7.b.1 持続可能なサービスへのインフラや技術のための財源移行におけるGDPに占めるエネルギー効率への投資(%)及び海外直接投資の総量



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール8 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

ターゲット	指標(仮訳)
8.1 各国の状況に応じて、一人当たり経済成長率を持続させる。特に後発開発途上国は少なくとも年率7%の成長率を保つ。	8.1.1 一人当たりの実質GDPの年間成長率
8.2 高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。	8.2.1 就業者一人当たりの実質GDPの年間成長率
8.3 生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。	8.3.1 農業以外におけるインフォーマル雇用の割合(性別ごと)
8.4 2030年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国主導の下、持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る。	8.4.1 マテリアルフットプリント(MF)、一人当たりMF及びGDP当たりのMF (指標12.2.1と同一指標) 8.4.2 天然資源等消費量(DMC)、一人当たりのDMC及びGDP当たりのDMC (指標12.2.2と同一指標)
8.5 2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。	8.5.1 女性及び男性労働者の平均時給(職業、年齢、障害者別) 8.5.2 失業率(性別、年齢、障害者別)
8.6 2020年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。	8.6.1 就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない15～24歳の若者の割合
8.7 強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終らせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。	8.7.1 児童労働者(5～17歳)の割合と数(性別、年齢別)
8.8 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。	8.8.1 致命的及び非致命的な労働災害の発生率(性別、移住状況) 8.8.2 国際労働機関(ILO)原文ソース及び国内の法律に基づく、労働権利(結社及び団体交渉の自由)における国内コンプライアンスのレベル(性別、移住状況別)
8.9 2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。	8.9.1 全GDP及びGDP成長率に占める割合としての観光業の直接GDP 8.9.2 全観光業における従業員数に占める持続可能な観光業の従業員数の割合
8.10 国内の金融機関の能力を強化し、全ての人々の銀行取引、保険及び金融サービスへのアクセスを促進・拡大する。	8.10.1 成人10万人当たりの商業銀行の支店数及びATM数 8.10.2 銀行や他の金融機関に口座を持つ、又はモバイルマネーサービスを利用する成人(15歳以上)の割合
8.a 後発開発途上国への貿易関連技術支援のための拡大統合フレームワーク(EIF)などを通じた支援を含む、開発途上国、特に後発開発途上国に対する貿易のための援助を拡大する。	8.a.1 貿易のための援助に対するコミットメントや支出
8.b 2020年までに、若年雇用のための世界的戦略及び国際労働機関(ILO)の仕事に関する世界協定の実施を展開・運用化する。	8.b.1 国家雇用戦略とは別途あるいはその一部として開発され運用されている若年雇用のための国家戦略の有無



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール9 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

ターゲット	指標(仮訳)
9.1 全ての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラを開発する。	9.1.1 全季節利用可能な道路の2km圏内に住んでいる地方の人口の割合 9.1.2 旅客と貨物量(交通手段別)
9.2 包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、2030年までに各国の状況に応じて雇用及びGDPに占める産業セクターの割合を大幅に増加させる。後発開発途上国については同割合を倍増させる。	9.2.1 GDPに占める製造業付加価値の割合及び一人当たり製造業付加価値 9.2.2 全産業就業者数に占める製造業就業者数の割合
9.3 特に開発途上国における小規模の製造業その他の企業の、安価な資金貸付などの金融サービスやバリューチェーン及び市場への統合へのアクセスを拡大する。	9.3.1 産業の合計付加価値のうち小規模産業の占める割合 9.3.2 ローン又は与信枠が設定された小規模製造業の割合
9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。	9.4.1 付加価値の単位当たりのCO2排出量
9.5 2030年までにイノベーションを促進させることや100万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとする全ての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。	9.5.1 GDPに占める研究開発への支出 9.5.2 100万人当たりの研究者(フルタイム相当)
9.a アフリカ諸国、後発開発途上国、内陸開発途上国及び小島嶼開発途上国への金融・テクノロジー・技術の支援強化を通じて、開発途上国における持続可能かつ強靱(レジリエント)なインフラ開発を促進する。	9.a.1 インフラへの公的国際支援の総額(ODAその他公的フロー)
9.b 産業の多様化や商品への付加価値創造などに資する政策環境の確保などを通じて、開発途上国の国内における技術開発、研究及びイノベーションを支援する。	9.b.1 全付加価値における中位並びに先端テクノロジー産業の付加価値の割合
9.c 後発開発途上国において情報通信技術へのアクセスを大幅に向上させ、2020年までに普遍的かつ安価なインターネットアクセスを提供できるよう図る。	9.c.1 モバイルネットワークにアクセス可能な人口の割合(技術別)



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール10 各国内及び各国間の不平等を是正する

ターゲット	指標(仮訳)
10.1 2030年までに、各国の所得下位40%の所得成長率について、国内平均を上回る数値を漸進的に達成し、持続させる。	10.1.1 1人当たりの家計支出又は所得の成長率(人口の下位40%のもの、総人口のもの)
10.2 2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。	10.2.1 中位所得の半分未満で生活する人口の割合(年齢、性別、障害者別)
10.3 差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、並びに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。	10.3.1 国際人権法の下で禁止されている差別の理由において、過去12か月の間に差別又は嫌がらせを個人的に感じたと報告した人口の割合
10.4 税制、賃金、社会保障政策をはじめとする政策を導入し、平等の拡大を漸進的に達成する。	10.4.1 賃金及び社会保障給付から成るGDP労働分配率
10.5 世界金融市場と金融機関に対する規制とモニタリングを改善し、こうした規制の実施を強化する。	10.5.1 金融健全性指標
10.6 地球規模の国際経済・金融制度の意思決定における開発途上国の参加や発言力を拡大させることにより、より効果的で信用力があり、説明責任のある正当な制度を実現する。	10.6.1 国際機関における開発途上国のメンバー数及び投票権の割合(指標16.8.1と同一指標)
10.7 計画に基づき良く管理された移民政策の実施などを通じて、秩序のとれた、安全で規則的かつ責任ある移住や流動性を促進する。	10.7.1 従業者が移住先の国で稼いだ月収に占める、その従業者が移住先の国で仕事を探すに当たって(自ら)負担した費用の割合 10.7.2 秩序のとれた、安全で規則的かつ責任ある移住や流動性を促進する移住政策を持つ国の数
10.a 世界貿易機関(WTO)協定に従い、開発途上国、特に後発開発途上国に対する特別かつ異なる待遇の原則を実施する。	10.a.1 後発開発途上国や開発途上国からの輸入品に適用されるゼロ関税の関税分類品目(タリフライン)の割合
10.b 各国の国家計画やプログラムに従って、後発開発途上国、アフリカ諸国、小島嶼開発途上国及び内陸開発途上国を始めとする、ニーズが最も大きい国々への、政府開発援助(ODA)及び海外直接投資を含む資金の流入を促進する。	10.b.1 開発のためのリソースフローの総額(受援国及び援助国、フローの流れ(例:ODA、外国直接投資、その他)別)
10.c 2030年までに、移住労働者による送金コストを3%未満に引き下げ、コストが5%を越える送金経路を撤廃する。	10.c.1 総送金額の割合に占める送金コスト



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール11 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する

ターゲット	指標(仮訳)
11.1 2030年までに、全ての人々の、適切、安全かつ安価な住宅及び基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する。	11.1.1 スラム、インフォーマルな居住地及び不適切な住宅に居住する都市人口の割合
11.2 2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。	11.2.1 公共交通機関へ容易にアクセスできる人口の割合(性別、年齢、障害者別)
11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。	11.3.1 人口増加率と土地利用の比率
11.4 世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。	11.3.2 定期的かつ民主的に運営されている都市計画及び管理に、市民社会が直接参加する仕組みがある都市の割合
11.5 2030年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。	11.4.1 全ての文化及び自然遺産の保全、保護及び保存における総支出額(公的部門、民間部門)(遺産のタイプ別(文化、自然、混合、世界遺産に登録されているもの)、政府レベル別(国、地域、地方、市)、支出タイプ別(営業費、投資)、民間資金のタイプ別(寄付、非営利))
11.6 2030年までに、大気の水質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。	11.5.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数(指標1.5.1及び13.1.1と同一指標)
11.7 2030年までに、女性、子供、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。	11.5.2 災害によって起こった、グローバルなGDPに関連した直接経済損失、重要インフラへの被害及び基本サービスの途絶件数
11.a 各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。	11.6.1 都市で生み出された固形廃棄物の総量のうち、定期的に収集され適切に最終処理されたものの割合(都市別)
11.b 2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靱さ(レジリエンス)を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。	11.6.2 都市部における微粒子物質(例:PM2.5やPM10)の年平均レベル(人口で加重平均したもの)
11.c 財政的及び技術的な支援などを通じて、後発開発途上国における現地の資材を用いた、持続可能かつ強靱(レジリエント)な建造物の整備を支援する。	11.7.1 各都市部の建物密集区域における公共スペースの割合の平均(性別、年齢、障害者別)
	11.7.2 過去12か月における身体的又は性的ハラスメントの犠牲者の割合(性別、年齢、障害状況、発生場所別)
	11.a.1 人口予測とリソース需要について取りまとめながら都市及び地域開発計画を実行している都市に住んでいる人口の割合(都市の規模別)
	11.b.1 仙台防災枠組2015-2030に沿った国家レベルの防災戦略を採択し実行している国の数(指標1.5.3及び13.1.2と同一指標)
	11.b.2 国家防災戦略に沿った地方レベルの防災戦略を採択し実行している地方政府の割合(指標1.5.4及び13.1.3と同一指標)
	11.c.1 現地の資材を用いた、持続可能で強靱(レジリエント)で資源効率的である建造物の建設及び改築に割り当てられた後発開発途上国への財政援助の割合

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール12 持続可能な生産消費形態を確保する

ターゲット	指標(仮訳)
12.1 開発途上国の開発状況や能力を勘案しつつ、持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組み(10YFP)を実施し、先進国主導の下、全ての国々が対策を講じる。	12.1.1 持続可能な消費と生産(SCP)に関する国家行動計画を持っている、又は国家政策に優先事項もしくはターゲットとしてSCPが組み込まれている国の数
12.2 2030年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。	12.2.1 マテリアルフットプリント(MF)、一人当たりMF及びGDP当たりのMF (指標8.4.1と同一指標) 12.2.2 天然資源等消費量(DMC)、一人当たりのDMC及びGDP当たりのDMC (指標8.4.2と同一指標)
12.3 2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。	12.3.1 a) 食料損耗指数、及び b) 食料廃棄指数
12.4 2020年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。	12.4.1 有害廃棄物や他の化学物質に関する国際多国間環境協定で求められる情報の提供(報告)の義務を果たしている締約国の数 12.4.2 有害廃棄物の1人当たり発生量、処理された有害廃棄物の割合(処理手法ごと)
12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。	12.5.1 各国の再生利用率、リサイクルされた物質のトン数
12.6 特に大企業や多国籍企業などの企業に対し、持続可能な取り組みを導入し、持続可能性に関する情報を定期報告に盛り込むよう奨励する。	12.6.1 持続可能性に関する報告書を発行する企業の数
12.7 国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達の慣行を促進する。	12.7.1 持続可能な公的調達政策及び行動計画を実施している国の数
12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。	12.8.1 気候変動教育を含む、(i)地球市民教育、及び(ii)持続可能な開発のための教育が、(a)各国の教育政策、(b)カリキュラム、(c)教師の教育、及び(d)児童・生徒・学生の達成度評価に関して、全ての教育段階において主流化されているレベル
12.a 開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。	12.a.1 持続可能な消費、生産形態及び環境に配慮した技術のための研究開発に係る開発途上国への支援総計
12.b 雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業に対して持続可能な開発がもたらす影響を測定する手法を開発・導入する。	12.b.1 承認された評価監視ツールのある持続可能な観光戦略や政策、実施された行動計画の数
12.c 開発途上国の特別なニーズや状況を十分考慮し、貧困層やコミュニティを保護する形で開発に関する悪影響を最小限に留めつつ、税制改正や、有害な補助金が存在する場合はその環境への影響を考慮してその段階的廃止などを通じ、各国の状況に応じて、市場のひずみを除去することで、浪費的な消費を奨励する、化石燃料に対する非効率な補助金を合理化する。	12.c.1 GDP(生産及び消費)の単位当たり及び化石燃料の国家支出総額に占める化石燃料補助金



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

ターゲット	指標(仮訳)
13.1 全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する。	13.1.1 10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数 (指標1.5.1及び11.5.1と同一指標) 13.1.2 仙台防災枠組み2015-2030に沿った国家レベルの防災戦略を採択し実行している国の数 (指標1.5.3及び11.b.1と同一指標) 13.1.3 国家防災戦略に沿った地方レベルの防災戦略を採択し実行している地方政府の割合 (指標1.5.4及び11.b.2と同一指標)
13.2 気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。	13.2.1 気候変動の悪影響に適応し、食料生産を脅かさない方法で、気候強靱性や温室効果ガスの低排出型の発展を促進するための能力を増加させる統合的な政策/戦略/計画(国の適応計画、国が決定する貢献、国別報告書、隔年更新報告書その他を含む)の確立又は運用を報告している国の数
13.3 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。	13.3.1 緩和、適応、影響軽減及び早期警戒を、初等、中等及び高等教育のカリキュラムに組み込んでいる国の数 13.3.2 適応、緩和及び技術移転を実施するための制度上、システム上、及び個人々人における能力構築の強化や開発行動を報告している国の数
13.a 重要な緩和行動の実施とその実施における透明性確保に関する開発途上国のニーズに対応するため、2020年までにあらゆる供給源から年間1,000億ドルを共同で動員するという、UNFCCCの先進締約国によるコミットメントを実施するとともに、可能な限り速やかに資本を投入して緑の気候基金を本格始動させる。	13.a.1 2020-2025年の間に1000億USDルコミットメントを実現するために必要となる1年当たりに投資される総USDル
13.b 後発開発途上国及び小島嶼開発途上国において、女性や青年、地方及び社会的に疎外されたコミュニティに焦点を当てることを含め、気候変動関連の効果的な計画策定と管理のための能力を向上するメカニズムを推進する。	13.b.1 女性や青年、地方及び社会的に疎外されたコミュニティに焦点を当てることを含め、気候変動関連の効果的な計画策定と管理のための能力を向上させるメカニズムのために、専門的なサポートを受けている後発開発途上国や小島嶼開発途上国の数及び財政、技術、能力構築を含む支援総額



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

ターゲット	指標（仮訳）
14.1 2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。	14.1.1 沿岸富栄養化指数 (ICEP) 及び浮遊プラスチックごみの密度
14.2 2020年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性 (レジリエンス) の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。	14.2.1 生態系を基盤として活用するアプローチにより管理された各国の排他的経済水域の割合
14.3 あらゆるレベルでの科学的協力の促進などを通じて、海洋酸性化の影響を最小限化し、対処する。	14.3.1 承認された代表標本抽出地点で測定された海洋酸性度 (pH) の平均値
14.4 水産資源を、実現可能な最短期間で少なくとも各資源の生物学的特性によって定められる最大持続生産量のレベルまで回復させるため、2020年までに、漁獲を効果的に規制し、過剰漁業や違法・無報告・無規制 (IUU) 漁業及び破壊的な漁業慣行を終了し、科学的な管理計画を実施する。	14.4.1 生物学的に持続可能なレベルの水産資源の割合
14.5 2020年までに、国内法及び国際法に則り、最大限入手可能な科学情報に基づいて、少なくとも沿岸域及び海域の10パーセントを保全する。	14.5.1 海域に関する保護領域の範囲
14.6 開発途上国及び後発開発途上国に対する適切かつ効果的な、特別かつ異なる待遇が、世界貿易機関 (WTO) 漁業補助金交渉の不可分の要素であるべきことを認識した上で、2020年までに、過剰漁獲能力や過剰漁獲につながる漁業補助金を禁止し、違法・無報告・無規制 (IUU) 漁業につながる補助金を撤廃し、同様の新たな補助金の導入を抑制する。	14.6.1 IUU漁業 (Illegal (違法)・Unreported (無報告)・Unregulated (無規制)) と対峙することを目的としている国際的な手段の実施状況
14.7 2030年までに、漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる。	14.7.1 小島嶼開発途上国、後発開発途上国及び全ての国々のGDPに占める持続可能な漁業の割合
14.a 海洋の健全性の改善と、開発途上国、特に小島嶼開発途上国および後発開発途上国の開発における海洋生物多様性の寄与向上のために、海洋技術の移転に関するユネスコ政府間海洋学委員会の基準・ガイドラインを勧奨しつつ、科学的知識の増進、研究能力の向上、及び海洋技術の移転を行う。	14.a.1 総研究予算額に占める、海洋技術分野に割り当てられた研究予算の割合
14.b 小規模・沿岸零細漁業者に対し、海洋資源及び市場へのアクセスを提供する。	14.b.1 小規模・零細漁業のためのアクセス権を認識し保護する法令/規制/政策/制度枠組みの導入状況
14.c 「我々の求める未来」のバラ158において提起されるとおり、海洋及び海洋資源の保全及び持続可能な利用のための法的枠組みを規定する海洋法に関する国際連合条約 (UNCLOS) に反映されている国際法を実施することにより、海洋及び海洋資源の保全及び持続可能な利用を強化する。	14.c.1 海洋及び海洋資源の保全と持続可能な利用のために「海洋法に関する国際連合条約 (UNCLOS)」に反映されているとおり、国際法を実施する海洋関係の手段を、法、政策、機動的枠組みを通して、批准、導入、実施を推進している国の数



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

ターゲット	指標(仮訳)
15.1 2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。	15.1.1 土地全体に対する森林の割合 15.1.2 陸生及び淡水性の生物多様性に重要な場所のうち保護区で網羅されている割合(保護地域、生態系のタイプ別)
15.2 2020年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。	15.2.1 持続可能な森林経営における進捗
15.3 2030年までに、砂漠化に対処し、砂漠化、干ばつ及び洪水の影響を受けた土地などの劣化した土地と土壌を回復し、土地劣化に荷担しない世界の達成に尽力する。	15.3.1 土地全体のうち劣化した土地の割合
15.4 2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。	15.4.1 山地生物多様性のための重要な場所に占める保全された地域の範囲 15.4.2 山地グリーンカバー指数
15.5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。	15.5.1 レッドリスト指数
15.6 国際合意に基づき、遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を推進するとともに、遺伝資源への適切なアクセスを推進する。	15.6.1 利益の公正かつ衡平な配分を確保するための立法上、行政上及び政策上の枠組みを持つ国の数
15.7 保護の対象となっている動植物種の密猟及び違法取引を撲滅するための緊急対策を講じるとともに、違法な野生生物製品の需要と供給の両面に対処する。	15.7.1 密猟された野生生物又は違法に取引された野生生物の取引の割合 (指標15.c.1と同一指標)
15.8 2020年までに、外来種の侵入を防止するとともに、これらの種による陸域・海洋生態系への影響を大幅に減少させるための対策を導入し、さらに優先種の駆除または根絶を行う。	15.8.1 外来種に関する国内法を採択しており、侵略的外来種の防除や制御に必要な資金等を確保している国の割合
15.9 2020年までに、生態系と生物多様性の価値を、国や地方の計画策定、開発プロセス及び貧困削減のための戦略及び会計に組み込む。	15.9.1 生物多様性戦略計画2011-2020の愛知目標の目標2に従って設定された国内目標に対する進捗
15.a 生物多様性と生態系の保全と持続的な利用のために、あらゆる資金源からの資金の動員及び大幅な増額を行う。	15.a.1 生物多様性及び生態系の保全と持続的な利用に係るODA並びに公的支出 (指標15.b.1と同一指標)
15.b 保全や再植林を含む持続可能な森林経営を推進するため、あらゆるレベルのあらゆる供給源から、持続可能な森林経営のための資金の調達と開発途上国への十分なインセンティブ付与のための相当量の資源を動員する。	15.b.1 生物多様性及び生態系の保全と持続的な利用に係るODA並びに公的支出 (指標15.a.1と同一指標)
15.c 持続的な生計機会を追求するために地域コミュニティの能力向上を図る等、保護種の密猟及び違法な取引に対処するための努力に対する世界的な支援を強化する。	15.c.1 密猟された野生生物又は違法に取引された野生生物の取引の割合 (指標15.7.1と同一指標)



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。
<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

ターゲット	指標(仮訳)
16.1 あらゆる場所において、全ての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。	16.1.1 10万人当たりの意図的な殺人行為による犠牲者の数(性別、年齢別)
	16.1.2 10万人当たりの紛争関連の死者の数(性別、年齢、原因別)
	16.1.3 過去12か月において (a) 身体的暴力、(b) 精神的暴力、(c) 性的暴力を受けた人口の割合
16.2 子供に対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。	16.1.4 自身の居住区地域を一人で歩いて安全と感じる人口の割合
	16.2.1 過去1か月における保護者等からの身体的な暴力及び/又は心理的な攻撃を受けた1歳～17歳の子供の割合
	16.2.2 10万人当たりの人身取引の犠牲者の数(性別、年齢、搾取形態別)
16.3 国家及び国際的なレベルでの法の支配を促進し、全ての人々に司法への平等なアクセスを提供する。	16.2.3 18歳までに性的暴力を受けた18歳～29歳の若年女性及び男性の割合
	16.3.1 過去12か月間に暴力を受け、所管官庁又はその他の公的に承認された紛争解決機構に対して、被害を届け出た者の割合
	16.3.2 刑務所の総収容者数に占める判決を受けていない勾留者の割合
16.4 2030年までに、違法な資金及び武器の取引を大幅に減少させ、奪われた財産の回復及び返還を強化し、あらゆる形態の組織犯罪を根絶する。	16.4.1 内外の違法な資金フローの合計額(USDドル)
	16.4.2 国際的な要件に従い、所管当局によって、発見/押収された武器で、その違法な起源又は流れが追跡/立証されているものの割合
	16.5.1 過去12か月間に公務員に賄賂を支払った又は公務員より賄賂を要求されたことが少なくとも1回はあった人の割合
16.5 あらゆる形態の汚職や贈賄を大幅に減少させる。	16.5.2 過去12か月間に公務員に賄賂を支払った又は公務員より賄賂を要求されたことが少なくとも1回はあった企業の割合
	16.6.1 当初承認された予算に占める第一次政府支出(部門別、(予算別又は類似の分類別))
	16.6.2 最後に利用した公共サービスに満足した人の割合
16.6 あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる。	16.7.1 国全体における分布と比較した、国・地方の公的機関((a) 議会、(b) 公共サービス及び(c) 司法を含む。)における性別、年齢別、障害者別、人口グループ別の役職の割合
	16.7.2 国の政策決定過程が包摂的であり、かつ応答性を持つと考える人の割合(性別、年齢別、障害者及び人口グループ別)
	16.8.1 国際機関における開発途上国のメンバー数及び投票権の割合
16.8 グローバル・ガバナンス機関への開発途上国の参加を拡大・強化する。	16.9.1 5歳以下の子供で、行政機関に出生登録されたものの割合(年齢別)
	16.10.1 過去12か月間にジャーナリスト、メディア関係者、労働組合員及び人権活動家の殺害、誘拐、強制失踪、恣意的拘留及び拷問について立証された事例の数
	16.10.2 情報へのパブリックアクセスを保障した憲法、法令、政策の実施を採択している国の数
16.9 2030年までに、全ての人々に出生登録を含む法的な身分証明を提供する。	16.a.1 バリ原則に準拠した独立した国内人権機関の存在の有無
	16.10.1 過去12か月間にジャーナリスト、メディア関係者、労働組合員及び人権活動家の殺害、誘拐、強制失踪、恣意的拘留及び拷問について立証された事例の数
	16.10.2 情報へのパブリックアクセスを保障した憲法、法令、政策の実施を採択している国の数
16.10 国内法規及び国際協定に従い、情報への公共アクセスを確保し、基本的自由を保障する。	16.a.1 バリ原則に準拠した独立した国内人権機関の存在の有無
	16.10.1 過去12か月間にジャーナリスト、メディア関係者、労働組合員及び人権活動家の殺害、誘拐、強制失踪、恣意的拘留及び拷問について立証された事例の数
	16.10.2 情報へのパブリックアクセスを保障した憲法、法令、政策の実施を採択している国の数
16.a 特に開発途上国において、暴力の防止とテロリズム・犯罪の撲滅に関するあらゆるレベルでの能力構築のため、国際協力などを通じて関連国家機関を強化する。	16.a.1 バリ原則に準拠した独立した国内人権機関の存在の有無
16.b 持続可能な開発のための非差別的な法規及び政策を推進し、実施する。	16.b.1 国際人権法の下で禁止されている差別の理由において、過去12か月の間に差別又は嫌がらせを個人的に感じたと報告した人口



最終更新日：2019年8月

国連統計部の以下のURLに掲載されている指標を総務省で仮訳した。

<https://unstats.un.org/sdgs/indicators/indicators-list/>

ゴール17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

ターゲット	指標（仮訳）
資金/Finance	17.1.1 GDPに占める政府収入合計の割合（収入源別）
17.1 課税及び徴税能力の向上のため、開発途上国への国際的な	17.1.2 国内予算における、自国内の税収が資金源となっている割合
17.2 先進国は、開発途上国に対するODAをGNI比0.7%に、後発開発途上国に対するODAをGNI比0.15～0.20%にするという目標を達成すると多くの国によるコミットメントを含むODAに係るコミットメントを完全に実施する。ODA供与国が、少なくともGNI比0.20%のODAを後発開発途上国に供与するという目標の設定を検討することを奨励する。	17.2.1 OECD/DACによる寄与のGNIに占める純ODA総額及び後発開発途上国を対象にした額
17.3 複数の財源から、開発途上国のための追加的資金源を動員する。	17.3.1 海外直接投資（FDI）、ODA及び南南協力の国内総予算に占める割合
17.4 必要に応じた負債による資金調達、債務救済及び債務再編の促進を目的とした協調的な政策により、開発途上国の長期的な債務の持続可能性の実現を支援し、重債務貧困国（HIPC）の対外債務への対応により債務リスクを軽減する。	17.3.2 GDP総額に占める送金額（USDドル）
17.5 後発開発途上国のための投資促進枠組みを導入及び実施する。	17.4.1 財及びサービスの輸出額に対する債務の割合
技術/Technology	17.5.1 後発開発途上国のための投資促進枠組みを導入及び実施している国の数
17.6 科学技術イノベーション（STI）及びこれらへのアクセスに関する南北協力、南南協力及び地域的・国際的な三角協力を向上させる。	17.6.1 各国間における科学技術協力協定及び計画の数（協力形態）
17.7 開発途上国に対し、譲渡的・特惠的条件などの相互に合意した有利な条件の下で、環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散を促進する。	17.6.2 100人当たりの固定インターネットブロードバンド契約数（回線速度別）
17.8 2017年までに、後発開発途上国のための技術バンク及び科学技術イノベーション能力構築メカニズムを完全運用させ、情報通信技術（ICT）をはじめとする実現技術の利用を強化する。	17.7.1 環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散の促進を目的とした開発途上国のための承認された基金の総額
能力構築/Capacity-building	17.8.1 インターネットを使用している個人の割合
17.9 全ての持続可能な開発目標を実施するための国家計画を支援するべく、南北協力、南南協力及び三角協力などを通じて、開発途上国における効果的かつ的を絞った能力構築の実施に対する国際的な支援を強化する。	17.9.1 開発途上国にコミットした財政支援額及び技術支援額（南北、南南及び三角協力を含む）（ドル）
貿易/Trade	17.10.1 世界中で加重された関税額の平均
17.10 ドーハ・ラウンド（DDA）交渉の受諾を含むWTOの下での普遍的でルールに基づいた、差別的でない、公平な多角的貿易体制を促進する。	17.11.1 世界の輸出額シェアに占める開発途上国と後発開発途上国の割合
17.11 開発途上国による輸出を大幅に増加させ、特に2020年までに世界の輸出に占める後発開発途上国のシェアを倍増させる。	17.12.1 開発途上国、後発開発途上国及び小島嶼開発途上国が直面している関税の平均
17.12 後発開発途上国からの輸入に対する特惠的な原産地規則が透明で簡略的かつ市場アクセスの円滑化に寄与するものとなるようにすることをを含む世界貿易機関（WTO）の決定に矛盾しない形で、全ての後発開発途上国に対し、永続的な無税・無枠の市場アクセスを適時実施する。	17.13.1 マクロ経済ダッシュボード
体制面/Systemic issues	17.14.1 持続可能な開発の政策の一貫性を強化するためのメカニズムがある国の数
政策・制度的整合性/Policy and institutional coherence	17.15.1 開発協力提供者ごとの、その国の持つ結果枠組み及び計画ツールの利用範囲
17.13 政策協調や政策の首尾一貫性などを通じて、世界的なマクロ経済の安定を促進する。	17.16.1 持続可能な開発目標の達成を支援するマルチステークホルダー開発有効性モニタリング枠組みにおいて進捗を報告する国の数
17.14 持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する。	17.17.1 (a)官民パートナーシップにコミットしたUSDドルの総額
17.15 貧困撲滅と持続可能な開発のための政策の確立・実施にあたっては、各国の政策空間及びリーダーシップを尊重する。	(b)市民社会パートナーシップにコミットしたUSDドルの総額
マルチステークホルダー・パートナーシップ/ Multi-stakeholder partnerships	17.18.1 公的統計の基本原則に従い、ターゲットに関する場合に、各国レベルで完全に詳細集計されて作成されたSDG指標の割合
17.16 全ての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。	17.18.2 公的統計の基本原則に準じた国家統計法のある国の数
17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。	17.18.3 十分な資金提供とともに実施されている国家統計計画を持つ国の数（資金源別）
データ、モニタリング、説明責任/ Data, monitoring and accountability	17.19.1 開発途上国における統計能力の強化のために利用可能となった資源のドル総額
17.18 2020年までに、後発開発途上国及び小島嶼開発途上国を含む開発途上国に対する能力構築支援を強化し、所得、性別、年齢、人種、民族、居住資格、障害、地理的位置及びその他各国事情に関連する特性別の質が高く、タイムリーかつ信頼性のある非集計型データ	17.19.2 a)少なくとも過去10年に人口・住宅センサスを実施した国の割合
17.19 2030年までに、持続可能な開発の進捗状況を測るGDP以外の尺度を開発する既存の取組を更に前進させ、開発途上国における統計に関する能力構築を支援する。	

持続可能な開発目標の相互関係

例えば今の日本は、「女性の活躍推進」や「働き方改革」などといった課題を優先して取り組む、ということを行っています。

SDGsでは「女性の活躍推進」は目標5に、「働き方改革」は目標8に該当します。しかし、本当に女性の活躍推進ということを考え、それを実行に移すのであれば、シングルマザーの貧困（目標1）、教育のあり方（目標4）、雇用のあり方（目標8）、男女の格差や偏見（目標10）、妊婦にやさしい都市や交通手段のあり方（目標11）、公共交通や意思決定のあり方（目標16）といった、実に多様な目標がこのことに関連しています。具体的な行動を考えると、関連する目標はもっと多くあります。

つまり、SDGsの17個の目標は、取り組みの入口が17個ある、と考えることが自然であり、どれかひとつの入口を進めば様々な目標がつながってくるものです。

このことは、社会の中にある多くの課題は、相互に複雑に絡みあっていて、それぞれが関連しあっていることも意味します。

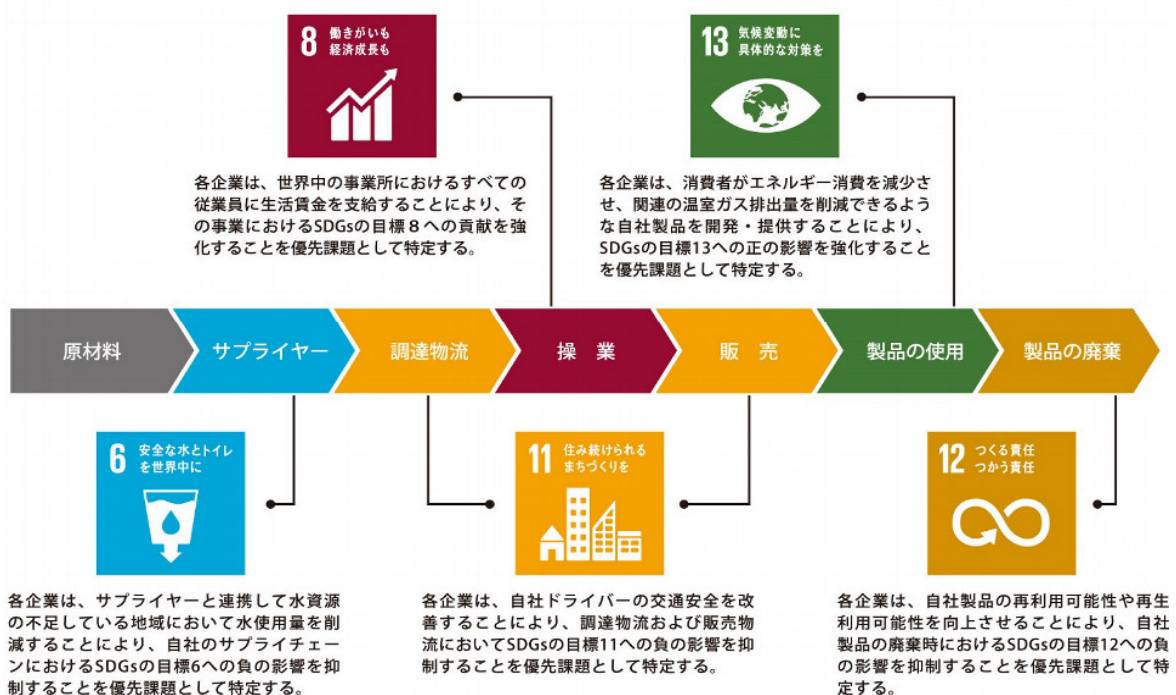
引用：未来を変える目標－SDGs アイデアブック

【参考イメージ①】

●SDGsの活用によって広がる可能性

SDGsが関係するのはグローバルな取組だけではありません。企業が行う事業そのものはもちろん、普段から取り組んでいる節電や節水、社員の福利厚生など、企業が行う行動すべてがSDGsとつながります。

実例：バリューチェーンにおけるSDGsのマッピング



引用：公益社団法人相模原青年会議所ウェブサイト

【参考イメージ②】

●SDGsのゴール・ターゲット間の関連性

2013年度より環境省が環境研究総合推進費戦略研究プロジェクトの一つとして実施した「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究―地球の限られた資源と環境容量に基づくポスト2015年開発・成長目標の制定と実現に向けて―」では、「持続可能な開発」の概念を、従来の「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」に加えて、「地球の生命維持システムの保護」の重要性を明示することで、「現在及び将来の世代の人類の繁栄が依存している地球の生命維持システムを保護しつつ、現在の世代の要求を満足させるような開発」へと広げることを提案しています。

人間が持続可能な経済活動や社会活動を営む前提として、地球環境が健全である必要がありますが、地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）で示したとおり、人間活動に伴う地球環境の悪化はますます深刻になってきており、我々の生命活動自体が危機に瀕していると言えます。

この概念を分かりやすく整理したものが、環境、経済、社会を三層構造で表した木の模式図です。木の枝には、環境、社会、経済の三層を示す葉が繁り、木を支える幹は、ガバナンスを示しています。木の根に最も近い枝葉の層は環境であり、環境が全ての根底にあり、その基盤上に社会経済活動が依存していることを示しています。また、木が健全に生育するためには、木の幹が枝葉をしっかり支えるとともに、水や養分を隅々まで行き渡らせる必要があります。木の幹に例えられているガバナンスは、SDGsが目指す環境、経済、社会の三側面の統合的向上を達成する手段として不可欠なものです。また、模式図の三層それぞれに、関連の深いSDGsのゴールを当てはめてみると、ゴールが相互に関連していることが一層理解しやすくなります。

環境、経済、社会を三層構造で示した木の図



引用：環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究」

●基本計画イメージ（案）

アイコンの関連付けイメージ

【まちづくり方針1】 安全でいつも安心して住めるまちづくり

【施策 1-1-1】 強靱な防災基盤の構築



【目指す姿】 災害に対する体制づくりに取り組み、地域防災力を向上させている

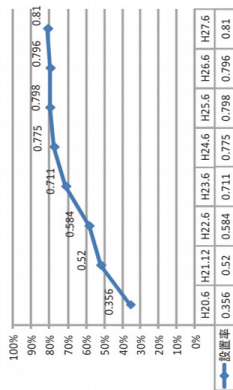
【現状と課題】

- 本市では、都市化の進展に伴い、道路幅も確保された新市街地が広がる一方で、耐震基準が改正された昭和56年以前の建築物も多く、切迫性の高いと言われている首都直下地震による被害拡大が懸念されます。
- 震災被害を軽減するためには、地震ハザードマップ・を活用し、大地震による建築物の危険度の周知に努め、住宅の耐震化を促進することが重要です。
- 震災対策では、老朽化した橋梁の架替え・長寿命化や緊急輸送道路の安全点検など、安全性の確保が必要です。
- 自然災害のほか、市民の生命を脅かす危機事案として、新型コロナウイルスやテロなどの武力攻撃災害などが挙げられ、それらの対策の充実が求められています。
- 自然災害も含めた、あらゆる危機事案に対する体制整備では、市民との協働の中で自主防災組織との協力が重要であり、自主防災活動の活性化への支援が必要です。
- 町会・自治会、自主防災組織、民生委員・児童委員等を基盤とした、災害時避難行動要支援者への支援体制の整備を図っていく必要があります。

【データや写真】



住宅用火災警報器の設置状況の調査



出典：総務省消防庁による住宅用火災警報器普及率調査

少年消防クラブ員による倒壊建物からの救出訓練

【事業展開】【主なサービスや取組み】

市全体の防災対策として、行政、市民ともに危機管理体制の整備にあたり、防災情報の共有化を図り、災害に対する情報のネットワークの構築を図ります。

基本事業	取組み内容
1-1-1 危機管理体制の整備	○三郷市地域防災計画及び国民保護に関する三郷市計画の推進 ○物資等供給体制の整備
1-1-2 防災情報の共有化	○各種ハザードマップの普及 ○情報ネットワークの構築・充実
1-1-3 災害に強い都市基盤の整備	○防災機能の向上 ○災害に強い都市基盤の整備 ○災害に強い建築物の確保 ○建築物の防災化の促進
1-1-4 地域の防災力の向上	○地域防災基盤の充実 ○防災意識の啓発・高揚 ○災害時要配慮者・支援体制の確立 ○地域連携への対応

【行事のポイント】

- ◆災害に強い建築物の確保
 - ◆地域防災基盤の充実
 - ◆防災意識の啓発・高揚
- 住宅等の耐震化を促進する。
自主防災組織への支援を行う。
自主防災訓練や各種イベント・学校等における啓発活動を行う。

【関連する個別計画】

三郷市地域防災計画
国民保護に関する三郷市計画
三郷市建築物耐震改修促進計画（平成28年度改定予定）

【用語解説】

- * ライフライン(life line)：生命線。都市の水道・電気・ガスなどの供給施設。
- * 市街化区域：都市計画法に基づき指定された、すでに市街地を形成している区域及び概ね10年以内に優先かつ計画的に市街化を図るべき区域のこと。
- * 防火・難防火地域：都市計画法で定められた地域地区の一種で、延焼防止を目的として、建築物を構造の面から規制する地域のこと。

【私たちができること】

- (市民)
地域の避難場所の確認、もしもの時の防災グッズの整備
- (職員)
体制整備の市民への周知
- (企業)
民間避難所の提供



●実施計画イメージ（案）

アイコンの関連付けイメージ

【まちづくりの方針1】 安全でいつも安心して住めるまちづくり

【施策 1-1-1】 強靱な防災基盤の構築

【指標】

目標項目	現状値	目標値



【事業展開】

- 三郷市地域防災計画及び国民保護に関する三郷市計画の推進
平成 27 年に改定した「三郷市地域防災計画」やわが国に対する武力攻撃事態、武力攻撃予測事態、緊急対処事態から、市民の生命・身体、財産を保護するため、必要な事項を定めた「国民保護に関する三郷市計画」により、迅速かつ的確に対応できる体制を確立します。
- 物資等供給体制の整備
避難場所等の備蓄品の充実を図り、飲料水の確保のため、飲料水兼用耐震性貯水槽の整備に努めます。また、備蓄物資の不足分を補充するため、民間との協定締結により、物資等の確保を図ります。
- 各種ハザードマップの普及
ハザードマップは、市民が災害による危険を理解するのに有効な情報です。作成した地震・洪水・洪水ハザードマップの普及を図り、市民の「自助」「共助」の意識の向上に努めます。
- 情報ネットワークの構築・充実
災害時の迅速な対応、対策を実施するため、正確な情報把握や確実な情報伝達が行えるよう、防災行政無線（移動系）のデジタル化を進め、情報ネットワーク・システム構築に努めます。また、他機関とのネットワーク等を活用し、情報の有効活用を図ります。
- 防災機能の向上
災害に強いまちづくりを進めるため、土地区画整理事業等の都市基盤整備を推進するとともに、道路・公園などの都市施設の整備推進に努めます。
- 災害に強い都市基盤の整備
都市型災害への対応を図るため、上・下水道、都市ガスなど、管路の改良や老朽管の敷設替え、都市計画道路の整備、橋梁の耐震化等、ライフライン・施設の安全性の確保に努めるとともに、関係機関に対し施設整備を要請していきます。
- 災害に強い建築物の確保
火災による延焼を防止するため、拠点市街地や建物の密集度が高い市街化区域・を中心に、「都市計画法」に基づく防火・準防火地域・の指定拡大に努めます。また、三郷市建築初期耐震改修促進計画に基づき、住宅等の耐震化促進に努めます。

令和2年度

洪水ハザードマップ策定事業	環境安全部	危機管理防災課
ホームページに掲載することを目的とした外国語版の洪水ハザードマップの作成する。		
ハザードマップの作成	外国語に対応したハザードマップを作成する	新規
ホームページ掲載	作成したハザードマップをホームページに掲載する	新規

災害備蓄品整備事業	環境安全部	危機管理防災課
備蓄倉庫の設置及び備蓄品の配置、避難所となる施設の受水槽に、非常用給水栓（蛇口）の設置		
備蓄品配置	備蓄品を配置する。（避難所、帰宅困難者一時滞在施設、福祉避難所）	継続
非常用給水栓設置	受水槽に非常用給水栓（蛇口）を設置する	新規

ブロック塀等の安全確保事業	まちづくり推進部	開発指導課
地震により倒壊するおそれのある既存ブロック塀等の撤去を促進し、歩行者等の安全を確保する。		
補助金交付	ブロック塀等の除却、建替え、改修等への補助	新規

耐震診断・耐震改修等費用助成事業	まちづくり推進部	開発指導課
旧耐震基準で建築された住宅の耐震化を促進する。		
戸別訪問	一戸建て住宅や分譲マンション管理組合への戸別訪問	継続
補助金交付	耐震診断・耐震改修・耐震シェルター等への補助	継続

令和3年度

洪水ハザードマップ策定事業	環境安全部	危機管理防災課
ホームページに掲載することを目的とした外国語版の洪水ハザードマップの作成する。		
ハザードマップの作成	外国語に対応したハザードマップを作成する	継続
ホームページ掲載	作成したハザードマップをホームページに掲載する	継続

災害備蓄品整備事業	環境安全部	危機管理防災課
備蓄倉庫の設置及び備蓄品の配置、避難所となる施設の受水槽に、非常用給水栓（蛇口）の設置		
備蓄品配置	備蓄品を配置する。（避難所、帰宅困難者一時滞在施設、福祉避難所）	継続
非常用給水栓設置	受水槽に非常用給水栓（蛇口）を設置する	継続

令和4年度

災害備蓄品整備事業	環境安全部	危機管理防災課
備蓄倉庫の設置及び備蓄品の配置、避難所となる施設の受水槽に、非常用給水栓（蛇口）の設置		
備蓄品配置	備蓄品を配置する。（避難所、帰宅困難者一時滞在施設、福祉避難所）	継続
非常用給水栓設置	受水槽に非常用給水栓（蛇口）を設置する	継続

リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトとは、後期基本計画を推進するにあたり、先導的に特に力を入れて取り組むプロジェクトです。

以下の３点は、基本構想実現のための重点テーマです。

重点テーマ

- 1 「参加と協働のまちづくり」を進めるとともに、地域の個性を生かしたまちをつくります。
- 2 子どもからお年寄りまで安全で安心して暮らせるまちをつくります。
- 3 自然と共生した快適な環境のまちをつくります。

以上の重点テーマを実現するために、以下の３点を後期基本計画におけるリーディングプロジェクトと位置づけました。

1 魅力あるまち・地域創生プロジェクト

- ☆消防団の充実強化【1-3-3】
- ☆都市型農業の振興【4-3-2】
- ☆観光PR・都市型観光の振興【4-6-1】
- ☆「日本一の読書のまち三郷推進計画」の推進【5-1-1】
- ☆シティプロモーションによる魅力発信【経営 3-1】
- ☆参加の機会の拡充【経営 4-2】
- ☆協働のネットワークづくり【経営 5-1】

2 支え合う未来の元気プロジェクト

- ☆消防活動の推進【1-3-1】
- ☆安全・安心な学校づくりの推進【5-2-4】
- ☆家庭の教育力の向上【5-4-1】
- ☆指導者・団体の育成及び次世代を担う地元アスリートのための支援【5-5-3】
- ☆多様な子育てサービスの提供【6-2-1】
- ☆生きがい活動の充実【6-3-4】
- ☆シルバー元気塾の推進【6-3-5】
- ☆在宅医療・介護連携推進【6-8-1】

3 都市環境快適プロジェクト

- ☆災害に強い都市基盤の整備【1-1-3】
- ☆水と緑の創出【2-2-2】
- ☆便利で快適な道路網の整備【3-6-1】
- ☆スポーツ・レクリエーション環境の整備【5-5-2】



1 魅力あるまち・地域創生プロジェクト

本市では、地域の個性と魅力あるまちづくりを進めてきました。市がより効果的にまちづくりに取り組む上では、「参加と協働」の考え方を進めるとともに、市民が地域での実践の取り組みを強化し、地域力を発揮することが重要となっています。市と市民が一体となったまちづくりを推進することで、本市の特長をさらに向上し、個性ある地域の創生を図ります。

プロジェクトに位置づく基本事業	基本事業No	取り組み内容
消防団の充実強化	【1-3-3】	消防団を中核として地域防災力の向上が求められていることから、消防団の充実強化を図ります。
都市型農業の振興	【4-3-2】	農業者や各種農業団体の三郷産農産物のブランド化により付加価値を高め、6次産業化により農業の活性化を図ります。
観光PR・都市型観光の振興	【4-6-1】	交流人口を増加させるためには、選ばれる観光資源や地域ブランドが必要です。地域の個性を生かした観光振興事業を推進し、魅力を発信します。
「日本一の読書のまち三郷推進計画」の推進	【5-1-1】	平成25年3月「日本一の読書のまち」を宣言し、27年度に「日本一の読書のまち三郷推進計画」を策定しました。家読ゆうびんコンクールの応募促進を図り、市民総ぐるみの生涯にわたる読書活動を推進します。
シティプロモーションによる魅力発信	【経営3-1】	人口流入及び定住促進を進めていくために、シティプロモーションにより地域の魅力を再発見し、それを発信していくことで、地域の個性を市内外へ伝えます。
参加の機会の拡充	【経営4-2】	市民の多様な価値観に対応するため、市民が計画策定をはじめとして、政策のPDCAに参加できる場を確保します。
協働のネットワークづくり	【経営5-1】	参加と協働を進めるため、地域をつなぐコーディネーター役となる市民及び職員を育成します。それらの人材を軸に協働のネットワークを構築し、地域の活力につなげるよう努めます。



2 支え合う未来の元気プロジェクト



子どもから高齢者までの世代が地域の中でふれあい、つながることで、豊かで安心して暮らせるまちとなります。地域内のいきいきとした交流・連携を促進することにより、子どもたちは将来豊かな人間性を持ち、高齢者は地域の中で生きがいを持って、元気に暮らしていくことができます。子どもから高齢者まで、全ての世代が支えあいながら、元気をもらい合う、元気を育むまちづくりを進めます。		
プロジェクトに位置づく基本事業	基本事業No	取組み内容
消防活動の推進	【1-3-1】	少年消防クラブ事業により、消防・防災教育を行い、将来の地域防災の担い手やリーダーとなる人材育成を図ります。
安全・安心な学校づくりの推進	【5-2-4】	少子化や学校施設の老朽化の進行に伴い、学校規模の適正化・適正配置を考慮しながら、子どもの学ぶ環境を整備していきます。
家庭の教育力の向上	【5-4-1】	若い世代が互いに親交を深めるとともに、地域での一体的な連携を図るため、「親の学習」事業等の推進を図り、地域活動の環境を整えます。
指導者・団体の育成及び次世代を担う地元アスリートのための支援	【5-5-3】	地元で活躍するアスリートを発掘し、広く市民に周知するとともに、オリンピック・パラリンピックなどの世界大会および全国大会に出場する際には財政的支援を行います。
多様な子育てサービスの提供	【6-2-1】	子ども子育て施策に対する市民の期待に応え、未来を担う子どもたちの健やかな成長を促すため、みさとこどもにこにこプランに基づき、各種の子育てサービスの充実を図ります。
生きがい活動の充実	【6-3-4】	高齢者が生きがいを持って楽しく充実した生活を送ることは、高齢者福祉の向上となります。高齢者が積極的に社会参加し多様な人との関わりを持つことにより「共助」の地域づくりを目指します。
シルバー元気塾の推進	【6-3-5】	高齢者の健康な暮らしの実現に向けて、シルバー元気塾の指導者を育成し、事業を拡充するほか、町会への指導者派遣活動等を実施し、「シルバー元気塾」を推進します。
在宅医療・介護連携推進	【6-8-1】	本市の医療・介護資源等の有効活用を行い、暮らしを支えるため、地域での支え合いによる連携を推進します。



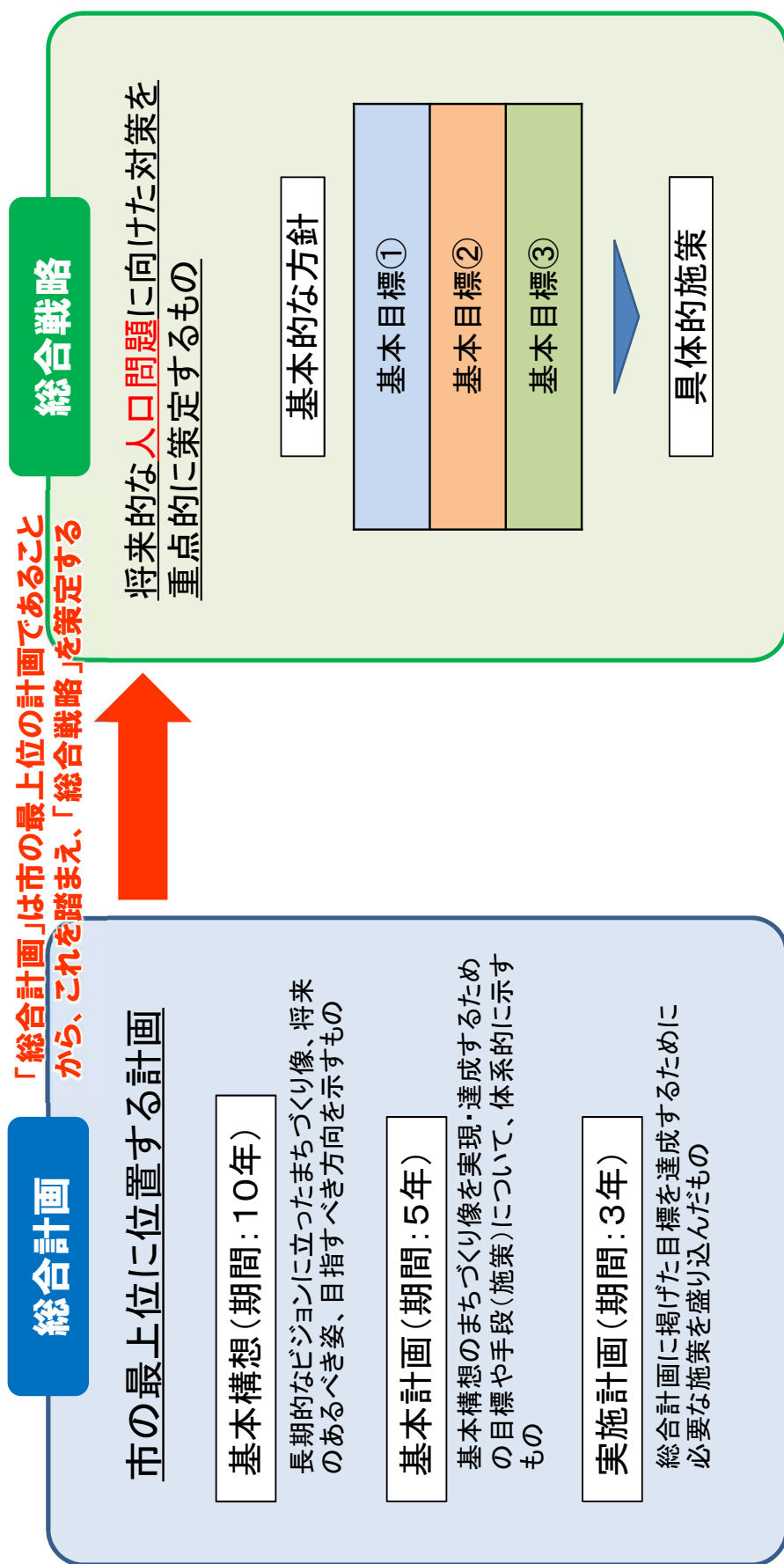
3 都市環境快適プロジェクト

本市の魅力のひとつは、にぎわいのある都市と豊かな自然とが共生したまちであることです。これまで高めてきた、地域のにぎわいを保ち続けていくために、快適さと利便性を備えた計画的な都市基盤を整備するとともに、水と緑のネットワークの形成に努めます。

プロジェクトに位置づく基本事業	基本事業No	取組み内容
災害に強い都市基盤の整備	【1-1-3】	災害への不安の解消するため、都市部に相応しい防災体制を整備するとともに、公共施設等の長寿命化事業に取り組みます。
水と緑の創出	【2-2-2】	二郷半用水緑道、第二大場川の水辺空間を活かし、水に親しみ、快適に歩ける緑道の整備や、花などによる緑化を推進し、「水と緑の骨格軸」「水辺のシンボル軸」として親水環境の整備を図ります。さらに、周辺の「みどりの拠点」等と連携し、水と緑のネットワーク形成を推進します。
便利で快適な道路網の整備	【3-6-1】	（仮称）三郷流山橋の架橋に取り組み、利便性と快適さを向上させます。またスマートICの大型車対応を進め、将来のフルインター化の準備を進めます。
スポーツ・レクリエーション環境の整備	【5-5-2】	快適環境を創造するため、半田運動公園スポーツ施設の整備や三郷IC近くの上口調節池を活用して、公認陸上競技場（400メートルトラック）の整備に取り組みます。



総合十画と総合戦略の関係(イメージ)



三、鄉市自治基本條例第16條

市長は、議会の議決を経て、市政運営の指針となる基本構想を定めるとともに、基本構想、基本計画及び実施計画で構成される総合計画に基づき、総合的な計画的に市政を運営するものとする。

「まち・ひと・しごと創生法」に基づき策定
第10条 市町村(中略)は、まち・ひと・しごと創生総合
戦略(中略)を勘案して、当該市町村の区域の実情に
応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての
基本的な計画((中略)「市町村まち・ひと・しごと創生総
合戦略」という。))を定めるよう努めなければならない。

基本構想・基本計画 近隣他市事例一覧

No	自治体名	計画名	計画期間		体系構造	名称1	名称2	名称3
			基本構想	基本計画				
	三郷市	第4次三郷市総合計画（現行）	平成22年度～平成32年度	平成28年度～平成32年度	3層	まちづくり方針(6) 経営方針(4)	施策の柱(18)	施策(54)
1	川口市	第五次川口市総合計画	平成28年度～平成37年度	平成28年度～平成32年度	2層	めざす姿(6)		施策(23)
2	草加市	第四次草加市総合振興計画	平成28年度～平成47年度	平成28年度～平成31年度	3層	名称不明(15)	名称不明(15)	施策(39)
3	蕨市	「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン	平成26年度～平成35年度	平成26年度～平成30年度	2層	基本目標(7)		テーマ(34)
4	八潮市	第5次八潮市総合計画	平成28年度～平成37年度	平成28年度～平成32年度	2層	分野(6)		施策(42)
5	春日部市	第2次春日部市総合振興計画	平成30年度～平成39年度	平成30年度～平成34年度	3層	基本目標(7)	政策（27）	施策(66)
6	流山市	流山市総合計画	平成12年度～平成31年度	平成22年度～平成31年度	2層	政策(6)		施策(36)
7	松戸市	松戸市総合計画	平成10年度～平成32年度	平成23年度～平成32年度	2層	節（6）		施策(24)
8	柏市	柏市第五次総合計画	平成28年度～平成37年度	平成28年度～平成32年度	2層	分野（7）		施策(27)
9	野田市	野田市総合計画	平成28年度～平成42年度	平成28年度～平成34年度	3層	基本目標（6）	基本方針（18）	施策（56）

重点的に取り組むこと		
名称	定義	内容
リーディングプロジェクト (4)	後期基本計画を策定するにあたり、先導的に特に力を入れて取り組むプロジェクト	1 魅力あるまち・地域創生プロジェクト 2 支え合う未来の元気プロジェクト 3 都市環境快適プロジェクト
設定なし		
重点テーマ (3)		・持続可能性の向上（防災、医療、公共施設維持管理等） ・ブランド力の向上（歴史・文化、教育等） ・コミュニティ力の向上（地域づくり、担い手育成等）
重点プロジェクト (6) リーディングプロジェクト (1)	6+1 のプロジェクトのもと、分野横断的な連携を図りながら、重点的に施策を展開していく (分野別計画も別途ある)	No. 1 ほっとわらび！安全安心プロジェクト No. 2 キラリわらび！子ども未来プロジェクト No. 3 イキイキわらび！健康密度日本一プロジェクト No. 4 ワクワクわらび！にぎわい創出プロジェクト No. 5 住スマイルわらび！暮らし快適プロジェクト No. 6 わがまちわらび！市民が主役プロジェクト まちの成長と深化を加速するリーディング・プロジェクト（蔵駅西口再開発、新庁舎の整備、地域包括ケアシステムの構築）
設定なし		
重点プロジェクト (3)	7つの「まちづくりの基本目標」において相乗効果や波及効果のある施策を横断的に展開し、重点的かつ優先的に取り組む施策	・子育て・健康長寿プロジェクト ・まちの拠点整備・経済発展プロジェクト ・安心・安全・持続可能なまちプロジェクト
重点施策 (13)	基本構想に定める6つの政策を構成する36の施策のうち、後期基本計画期間中に特に重点的に取り組む施策を重点施策として位置づける (実施計画レベルではリーディング事業を設定する)	
リーディングプラン (5)	本市の将来像について、そのめざしたい未来像を4つのシナリオの中から明らかにし、その未来像に到達するためのプランを提示するもの	1 市民参加・社会参加促進プラン 2 魅力ある子育て・教育創造プラン 3 松戸の住みやすさ再生プラン 4 地域産業活性化プラン 5 行財政健全・安定化プラン
基本的な目標（重点目標） (3)	本市が目指す将来像及びその実現のための取り組みの方向性を示したもの	1 充実した教育ができ、子どもを安心して産み育てられるまち 2 健康寿命を延ばし、いつまでもいきいきと暮らせるまち 3 地域の魅力や特性を活かし、人が集う活力あふれるまち
重点プロジェクト (8)	基本目標を、横断的に捉え直し、関連する施策を有機的に連動させながら取り組むという視点に立ち、前総合計画の重点プロジェクトからの継続性、連続性に配慮して、重点プロジェクトを設定（全ての施策がいずれかのプロジェクトに属している）	プロジェクト1 自然と共生するまちづくり プロジェクト2 高齢者や障がい者にやさしいまちづくり プロジェクト3 子育てがしやすく豊かな心と個性を育むまちづくり プロジェクト4 誰もが健康に暮らせるまちづくり プロジェクト5 安全で魅力あふれるまちづくり プロジェクト6 交通の利便性が高いまちづくり プロジェクト7 市民がふれあい協働するまちづくり プロジェクト8 活力とにぎわいに満ちたまちづくり

まちづくり委員会工程表

開催回	開催日	総合計画	人口ビジョン	総合戦略
第1回	平成31年 4月24日（水）	・策定方針 ・今後のスケジュール ・策定の体制について ・第4次総合計画の振り返りについて		
第2回	令和元年 6月27日（木）	・基礎調査結果について ・基本構想について	・人口推計の基礎分析について	
第3回	令和元年 8月20日（火）	・施策の検討（施策に関連づく分野）	・人口ビジョン案について（概ね完成）	・施策の検討（施策に関連づく分野）
第4回	令和元年 10月24日（木）	・基本計画（施策体系）の骨子案について		・骨子案（施策体系）について
第5回	令和元年 11月28日（木）	・基本計画の検討①について ※重点取組み、SDGsの検討		
第6回	令和2年 2月20日（木）	・基本計画の検討②について ※まちづくり方針1、2、3の検討 ・国土強靱化骨子案について		・総合戦略延長内容の検討について
第7回	令和2年4月	・基本計画の検討③について ※まちづくり方針4、5、6、7の検討		
第8回	令和2年6月	・基本計画の検討④について ※経営方針1、2、3の検討 ・国土強靱化の検討		・総合戦略の検討について ※策定期間の変更及び総合計画と整合を図るため、総合計画が概ね固まった後に検討。
第9回	令和2年8月	・総合計画パブコメ案について	・パブリックコメント資料について	・パブリックコメント資料について
第10回	令和2年11月	・総合計画パブコメ結果について ・総合計画答申案について	・パブリックコメントの結果報告	・パブリックコメントの結果報告 ・総合戦略答申案について
答申	令和2年12月	令和2年12月議会において、 議決を経て令和3年2月に策定予定	令和3年3月に策定予定	令和3年3月に策定予定

赤字：変更箇所 下線：変更前の説明